

教育目標	◎「スポーツ(部活動)を通しての人づくり」をスローガンとし、たくましい体力と豊かな情操を育むとともに、確かな学力を身につけさせ、自己の進路を確保させる。 ◎社会の中で自立して生きていくための基礎基本を学ぶ学校。		総合評価
運営方針 (重点目標)	○挨拶の励行や適切な言葉遣い及び時間を守る指導を徹底する。 ○校内美化の徹底及び学習環境と身だしなみを整えさせる。 ○授業、部活動、学校行事等に自主的・意欲的に取り組む態度を身につけさせる。		B
28年度の成果と課題	本年度の具体的目標	具体的方策	
平成28年度は、「学習意欲を喚起し、学力の向上を図る」「ルールやマナーを守ることの大切さを理解させ、社会で自立するための基本的な力を身につけさせる」など、重点目標として取り組みを行った。その結果、成績不振科目の減少が見られるなど学習の取り組みの効果が上がってきている。しかし、ルールやマナーを守ることの大切さなど理解することが難しい生徒の姿があり、まだまだ今後の課題である。また、学校評価アンケートからも校内外的環境美化についてあまり行きとどいていないと考えている割合が多いことから、生徒の学校美化についての意識づけが大切であり、学校全体としても検討していかなければならない点である。 学校評議員や地域の方からも、地域とともにある学校としての取り組みに対して一定の評価をいただいている。今後も取り組みを通して地域との連携強化を図るとともに、広報活動にもさらに力を注ぎ、活力ある学校づくりを進めていきたいと思う。	・学習意欲を喚起し、学力の向上を図る。	学習習慣の定着 ・予鈴入室・チャイム始業 ・課題提出徹底・学力補充講座 ・授業研究充実	
	・ルールやマナーを守ることの大切さを理解させ、社会で自立するための基本的な力を身につけさせる。	規範意識の醸成 ・挨拶の励行・身だしなみ指導 ・適切な言葉遣い・3秒礼の励行 ・遅刻防止指導・清掃活動の徹底 ・集会時の意識の向上	
	・部活動やボランティア活動等に積極的に参加させることをとおして、豊かでたくましい心身の育成を図る。	部活動等の活性化 ・部経営の魅力化・体験入部の充実 ・競技力の向上・クラブ員集会充実 ・ボランティア体験	
	・学校評価の推進を図る。	学校評議員会の活性化 ・学校評価システムの構築(評価指標の見直し) ・全教職員による学校づくり	
	・情報収集及び広報(情報発信)の強化を図る	学校案内の強化 ・学校HPの充実(内容・計画的更新) ・学校通信(育友会報告)の充実・保護者との連携強化 ・オープンキャンパス充実	
・「学校コミュニティ協議会」での熟議をとおして、地域との連携・協働を図り、地域とともにある学校づくりを進める。	地域と共にある学校づくり ・学校コミュニティ委員会の活性化 ・学校コミュニティ協議会の充実		

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・ 分析)及び改善方策
総務部	・積極的な情報発信	・HPの内容の充実および各イベントの豊富な情報提供かつ迅速な発信を心がけ中学校等外部への情報強化を図る。特に、部活動のページでは年2回の研修を持ち各顧問に編集をマスタージてもらい、充実した内容かつ計画的にタイムリーな更新を年2回以上とする。 A 更新(行事)は7日以内	B	B	・学校行事のHPの更新を7日以内に行うことができなかった。 ・HP研修会の実施により、全ての部活動が年2回以上の更新ができた。	・HPの更新はサーバーにアップロードして初めてインターネットなどで見られるようになる。学校行事だけでなく、気象情報の発表や部活動のHPなどのアップロードをスムーズにするために、専らHPを担当する人をつける。	・学校から保護者への配布物が確実に届くように今後も取り組んでもらいたい。 ・HPについて、よりよいものにしてもらいたい。
		・本校の魅力アピールができるよう、学校案内パンフレットの内容を見直し、デザイン等を工夫する。	A		・学校案内パンフレットのデザイン・内容を刷新することができた。学校のカリキュラムも分かりやすく、良い物ができた。900部以上をすでに配布し、本校周知に貢献することができた。	・毎年デザインの刷新を図っているが、技能的に素人ではやはり限界がある。より良い物を作るためには、単価があがってしまうが、デザイン依頼を検討したい。	
	・保護者および育友会との緊密な連携	・保護者が学校教育活動に関心を持ち、諸活動に進んで参加してもらえるよう情報を発信していく。また、ホームページ・育友会報誌(年2回発行)等を活用して育友会活動を広報し、活動への協力も促していく。さらに役員会、評議員との合同会議の開催時間を固定化した新しい案を提示し、多くの保護者の方に話し合いに参加していただけるようにする。	A		・育友会報は、保護者の意見を取り入れ、紙面を拡大、掲載写真も増やした。 ・役員会の開催時間について、試験的に夕方(18:00~)にしたものの、参加人数の大幅な増加にはつながっていないように思う。また、遅くからの会議は職員・管理職に負担がかかる。 ・今年度はもつぎに代わる「ドリンクエステイブル」を開催。保護者の方々の負担を減らすことができた。感染症などが不安視されていたが、新たな行事にスムーズに移行することができた。	・役員会について、普段参加できていなかった人たちが参加できたことは成果であるが、実際に中心となって動く役員負担が増えないような形にしているよう、日程調整を緊密にする。	
	・奨学金の円滑な申請	・高校奨学金制度の申請手続きの方法を周知徹底させるため入学式後、新入生保護者に説明を行う。また、各種奨学金の案内の教室掲示を拡大し、生徒が奨学金を申込易い環境を整える。さらに、高校生等奨学金給付金制度と支援金が生徒・保護者が混乱しないよう一層理解しやすい資料を作成し、個別対応を行う等の工夫に努める。 ・3年生の進学予定者対象に日本学生支援機構(予約採用)奨学金の説明会を実施する。今年度は給付型の奨学金ができたので、提出書類等の振りがないように指導をする。また、インターネット(スカラネット)による申込がスムーズにできるよう、3年生の教員と連携を図る。	A	A	・高校奨学金制度については、個別指導も行い、手続きの仕方を説明するなどスムーズな手続きができていた。ただ、奨学金破産が社会問題になっており、生徒や保護者に周知する必要もでてきている。 ・高校生等奨学金給付金については、申請方法が改善されたこともあり、保護者による不備は例年に比べると少なかった。ただ、給付金の案内が例年より早かった上、文書の配布を生徒にしたため、「昨年度と違い、申請ができなかった」と、3年の保護者から意見がでた。 ・日本学生支援機構奨学金については、3学年の先生方の協力のもと、新たな奨学金についても対応できた。ただ、生徒や保護者の奨学金に対する認識が不足しており、訂正や書類不備などの連絡に担当者が振り回されている感じがあった。また、申込み後の辞退者が多かった。	・案内文書の配布を担当の先生方に確実にしてもらおうこと、そして、提出締め切り日を口頭ではなく、教室掲示をする方法に変える。 ・第1回奨学金申請者集会は5月にあるため、3年以上が早い時期に申込みをする。進路が決まっていないにもかかわらず、慌てて申込みをする生徒もおり、奨学金の安易な申込は許今問題になっている奨学金破産につながることを認識してもらう必要がある。総務部として、集会の際に注意喚起を行っていく。	
	・魅力ある学校紹介行事の企画・実施	・オープンキャンパスの夏休みのクラブ体験受け入れを強化し中学生にアピールする。また、全体会の更なる充実を目指し、企画・運営方法を工夫する。特に部活動紹介では動画の導入や本校生による説明を速くよりわかりやすく魅力あるものにして興味を持たせさせる。また、全職員が協力して学校紹介事業に参画する。 A 参加者満足度90%以上	A	A	・夏休みのクラブ体験受付は、多くの中学生が参加していて、参加申込みをしない日も参加したいという声が多かった。ただ、今年度はクラブ体験の日に気象情報が発表され、その対応に混乱が生じた。 ・オープンキャンパスは昨年度と同様スムーズに行うことができた。学校紹介や部活動紹介の動画なども好評で、満足度はとても高いものとなった。ただ、参加者数が本校の定員をオーバーしていないため、良い物ができて結果として活きてこない。また、オープンキャンパスに来ている生徒の約25%しか入学していない現実がある。 ・学校紹介・部活動紹介だけになっているので、生徒目線の情報が少ない。より生徒目線のオープンキャンパスにするため、在校生が主体的に運営できる形にする必要がある。参加者満足度 99%	・参加申込みをしない日については、保険が適応されないため、部活動体験ができないことを保護者に確実に伝える必要がある。そのため、中学校側にも理解してもらうように連絡していく。 ・気象情報が発表された時の対応について、マニュアルを作成し、各部活動顧問と共有する。 ・在校生がより主体的に運営できる形にするため、事前の指導や打ち合わせなどを前もってする。	
		・オープンキャンパスの一環として、中学生の学校訪問や、部活動の体験の受け入れを積極的にし、開かれた学校を目指す。	A	A	・大会前や試合のため、部活動体験の受け入れが難しい状況にあったが、各部活動顧問の先生方の協力で、部活動体験の日を設定できた。	・本年度も同様に、各部活動には1日でも多く体験可能な日を設定してもらう。	

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
教務部	学習習慣の確立 学習意欲の向上	予鈴入室、本鈴始業を守らせる。 A 達成率 80%以上(生徒アンケート)	B	・生徒アンケート「ややそう思う、そう思う」 H30 1年:80.4%、2年:71.2%、3年:79.9%、平均77.2% H29 1年:65.5%、2年:70.1%、3年:75.5%、平均70.2% 職員全体の指導により、昨年に比べて大幅に数値が上昇した。	本年度に引き続き、全職員による予鈴着席、本鈴始業の指導を粘り強く継続してその定着を図ることで、いっそう授業を大切に、落ち着いて学習に取り組む学校の雰囲気、定着を図る。	・成績不振者講習、促進講習の継続的な取組をお願いしたい。また、家庭学習への意識の向上に努めてもらいたい。
		・学力補充講座や成績不振者講習の案内、参加状況等を保護者に連絡し、家庭との連携を密にする。 A 学習習慣定着に向けた指導について、適切に行っている(保護者アンケート) 80%	A	・保護者アンケート「ややそう思う、そう思う」 H30 81.8% 本年度も学力補充講座、成績不振者講習の案内、出欠状況等を各クラスで保護者に郵送してもらい、確実な連絡を目指した。保護者の受止めでは「適切に指導が行われている」とする割合が非常に高い。しかし、学習習慣の「定着」までには至っていない生徒が多い現状がある。 生徒アンケート7 「普段も家庭学習に取り組んでいる」 「ややそう思う」「そう思う」が H30 1年:27.7%、2年:35.3%、3年:50.3%、平均:37.8%	学習習慣定着については家庭との連携を密にするだけでなく、家庭での具体的な前向きな指導協力と生徒自身の前向きな意識が必要である。この点について本校保護者、生徒の生活・家庭事情、意識には様々な問題と課題が見受けられるが、今後とも生徒への継続的な指導を行い、保護者にも確実かつ具体的な呼びかけ・協力を強く求めていく。	
		・各種オリエンテーション、シラバス等により科目の評価方法を生徒に確実に伝え、生徒の授業や家庭学習に取り組む姿勢・意欲の向上を図る。 A1 私は授業に意欲的に取り組んでいる。 A2 私は定期考査前に家庭での学習をきちんと行っている。(生徒アンケート) A1・A2 平均70%以上	B	A1:生徒アンケート「ややそう思う」「そう思う」が H30 1年:79.9%、2年:72.3%、3年:69.1%、平均:73.8% H29 1年:63.5%、2年:64.0%、3年:74.3%、平均:67.1% A2:生徒アンケート「ややそう思う」「そう思う」が H30 1年:66.1%、2年:63.5%、3年:68.5%、平均:66.0% H29 1年:53.0%、2年:52.7%、3年:58.1%、平均:54.5% 生徒の授業に取り組む姿勢・意欲、定期考査前の家庭学習意識は全体的に昨年に比べ向上していると言える。また、入学年度が近い学年ほどその割合が高い現状が伺える。	授業に取り組む姿勢・意欲、家庭学習意識は向上傾向にあるが、学習に対する意欲が極めて低い生徒の割合が25%～35%と、依然として多い現状がある。高校生活に対する目的意識が希薄な生徒にどのような目的意識を持たせていくのか、それらの生徒に対して授業担当者、HR担任、各分掌等、教員全体で、生徒の学習意欲向上を図る方法、取り組みを模索し、様々な機会を実施する必要がある。	
		・11月の奈良県教育週間に先立ち、2学期中間考査前の学力補充講座を教育週間講座(仮称)に切り替え、学力の高い生徒を対象とした講座の実施を検討する。また、この取り組みにより「不登生徒を支える学校」と共に「学力をさらに高める学校」という生徒の受け止めを図り、校内の学習気運を高める。	B	2学期中間考査前に1・2年の成績中位～上位者を対象に国語・地理・公民・数学・英語科で「学力促進講座」を実施していただいた。 生徒の参加率は 1年:6科目平均 71.4%、2年:6科目平均 61.8%であった。 生徒の反応については各科目よりおおむね良好な報告をいただいたが、生徒の受け止めについてアンケート等実施できていない。	次年度は学力促進講座受講生徒に事後アンケートを行い、生徒の受け止め意識を確認したい。また、次年度は2学期に加え、1学期にも促進講座を実施したい。 ・生徒アンケート30「本校に入学してよかった」 「ややそう思う」「そう思う」が 1年:54.2%、2年:45.5%、3年:55.7%、平均:51.8% ・教員アンケート30「本校にプライドを持っている」 61.4% 不本意入学意識、コンプレックスを払拭し、生徒・教員共にプライドを育てよう、学力の向上を図りたい。	
	・基礎学力の定着	「学校裁量の時間(基礎学)」により各教科の授業内容と連携させた「学び直し」の機会を設け、基礎学力の向上を図る。 A 生徒の理解満足度「基礎学の時間が役に立っている(生徒アンケート)」 80%以上	C	生徒アンケート「ややそう思う」「そう思う」が H30 1年:58.9%、2年:52.6%、3年:57.2%、平均:56.4% H29 1年:46.5%、2年:56.4%、3年:58.2%、平均:53.5% 平均割合は低いが、過半数の生徒が基礎学力の向上に役に立っていると受け止めており、それらの生徒に対しては基礎学力の定着を担う有用な取り組みになっていると言える。	主に副担任の先生が実施・採点、やり直し等に関わっていた。生徒の受け止め意識を確認したい。また、次年度は2学期に加え、1学期にも促進講座を実施したい。 ・生徒アンケート30「本校に入学してよかった」 「ややそう思う」「そう思う」が 1年:54.2%、2年:45.5%、3年:55.7%、平均:51.8% ・教員アンケート30「本校にプライドを持っている」 61.4% 不本意入学意識、コンプレックスを払拭し、生徒・教員共にプライドを育てよう、学力の向上を図りたい。	
		・生徒の学習進捗状況を把握し、必要な生徒に対して、各考査前の学力補充講座への参加を促す。 A 生徒の参加率 80%以上	B	年間平均参加率 H30 1年:79.0%、2年:58.3%、3年:56.0%、平均:64.9% H29 1年:39.7%、2年:62.4%、3年:64.8%、平均:55.6% 特に1年の参加率が大きく上昇した。また全体的にも上昇した。	意欲的に参加を求める生徒を教済する取り組みとして本校では重要な取り組みである。次年度、学力促進講座との実施バランスを考慮しながら実施をお願いする。	
	・評価基準の作成、評価方法等の工夫改善	・学習指導と直結した適切な学習評価を行う。今年度は特に成績不振者講習の経緯について、客観性にたわわらず、妥当性・公平性・信頼性を欠くことのないような観点別評価を設定する。 A 先生は授業や成績不振者講習等で評価の方法を明確に説明している。 70%	B	生徒アンケート「ややそう思う」「そう思う」が H30 1年:65.6%、2年:59.0%、3年:63.8%、平均:62.8% H29 1年:47.2%、2年:48.9%、3年:58.3%、平均:51.3% 前年度に比べ、全学年で割合が上昇した。評価方法については常に適正化を図り、生徒に伝えていく必要がある。 今年度は成績不振者講習の評価について、具体的な評価基準を設定し、共通理解を得て実施ができた。	観点別評価の導入について、教務部内で具体案の検討を行っていきたい。また、各教員それぞれの状況に応じた研修等を行って評価の改善、実施を行っていただきたい。	
	・情報の適切な管理と情報機器の有効活用	・出欠管理、成績処理システムの研修を年2回以上行い、職員の処理が円滑に行われるようにする。また、昨年度に引き続き、必要に応じてシステムの改良を行う。	B	・出欠管理、成績処理システムの研修を4月に2回行い、質問がある場合に個々に対応して追加説明を行った。また、入試に関するシステムの一部改良を行った。	・出欠管理システムに思わぬ異常が起こることがあった。原因を解明しシステムの改良を行っていききたい。 ・職員用PCが古く、業者に修理を依頼することが度々あった。PC、インターネット等の情報設備の管理は、現在教務と総務が行っているが、これに対する管理組織が新たに必要と思われる。	
		・教務部内で成績処理が円滑に行われ、事務処理が迅速に進む方法を研究する。	B	・教務部内での成績処理業務の負担が一部の固定した職員に集中する傾向があったが、各学年の教務員員にできるだけ分散するようにして業務負担のバランス調整を行った。		

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価(結果・ 分析)及び改善方策
生徒指導部	・基本的生活習慣の定着	・挨拶を滞りなく行うこと出来るよう、生徒会本部役員・クラブ員が校門・玄関で挨拶運動を行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会本部役員が中心となって挨拶運動を実施した。</li> <li>・「学校評価アンケート」において、「先生や先輩・友人等に挨拶をしている」は78.1%と昨年より4.5%上昇しているが、依然挨拶のできない生徒が多数見受けられる。</li> <li>・遅刻指導は学年毎に粘り強く実施した。遅刻者数は前年度比約3%減であるが、二極化が顕著であり、遅刻常習生徒の遅刻防止が課題である。</li> <li>・3年生の遅刻がもっとも多く、例年と明らかに異なっている。</li> <li>・「学校評価アンケート」では、「本校は挨拶、言葉遣い、身だしなみ等の指導を適切に行っている」が75%以上となっている。しかし、その一方で「暴言」による特別指導が若干見られた。</li> <li>・職員室への入室時の指導を粘り強く行い、学校生活の中でも指導を行った。</li> <li>・丁寧な言葉遣いや敬語の使用の一定の定着はあるものの、課題はまだ残っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の声かけを粘り強く行う。</li> <li>・生徒会本部役員だけでなくクラブ員と連携し、挨拶運動を効果的に行うとともに生徒自らの活動を喚起する。</li> <li>・遅刻者に対する遅刻指導の検討をし、より効果的な指導を行う。</li> <li>・家庭への協力依頼を強化したり、個別に面談等を実施することで意識を高める指導を行う。</li> <li>・日常あらゆる場面での言葉遣いに関する指導を徹底し、全教員の粘り強い取組を展開する。</li> <li>・人権教育部と連携し、LHRにおいて「正しい言葉遣い」を展開していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣の向上が出来るが、さらなる向上に向けて取組をしてもらいたい。また登下校時、電車乗車時のマナー向上に努めてもらいたい。</li> </ul>
		・全ての生徒に時間を守る生活習慣を身につけさせるため、遅刻生徒には放課後課題を課す。	A			
		・生徒との会話の機会に適切な言葉遣いを教員が教えることできるよう、教員自身の意識を向上させる。	A			
生徒指導部	・生徒の規範意識の向上を図る	・高校生として身につけておくべき常識的な行動を取ることできるように、日常の教育活動から公德心を養う。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学年は「われら人間創造」、2、3学年は学年別指導案に基づき、道徳教育HRを展開した。また、学級活動においてもマナー向上を呼びかける展開を継続して行った。校外からのマナーに関する苦情に対しては、臨時全校集会で、生徒全員に注意喚起を行った。</li> <li>・全体指導として、「防犯教室」「薬物乱用防止教室」「身だしなみセミナー」等を実施し、自他の命の大切さや規範意識の基になる社会性や公共心の更なる向上を目指し取り組んだ。</li> <li>・問題行動前年度比約40%減。件数は減少したものの、深夜徘徊、喫煙、指導不服従等の指導は依然として多く、家庭との連携が不可欠である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規範意識向上を目指したLHRの展開を行い、より生徒の心へ届き、日常生活に表われるような工夫を行う。</li> <li>・学年集会や全校集会等の全体指導を実施する。</li> <li>・校外巡視の強化を図り、組織的かつ計画的に実施する。</li> <li>・問題行動に至らないために、日々の生徒理解と個別の教育相談を行うことや教員間の「報・連・相」、保護者との連携を密に行うことで、未然防止・早期の対応につなげる。</li> </ul>	
		・日々の教育活動と道徳教育HRをとおして規範意識の向上を図る。	A			
生徒指導部	・部活動の活性化	・部活動に積極的に参加させ、その活動を継続できるように活動環境を整える。	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部活動では年間をとおして活動し、運動部・文化部ともに近畿大会や全国大会への出場や入賞等の成果が得られている。</li> <li>・部活動導入率51%(前年度比4.4%増)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より多くの入部希望者が生まれるよう新入生への部活動紹介や体験入部等を工夫する。特に普通科生徒の運動部加入が急務である。</li> <li>・退部者を防ぐため、3年間所属して活動できるような指導体制の検討が必要である。</li> </ul>	

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
人権教育部	「自他敬愛」の精神の高揚	・全教育活動を通して、生徒の人権意識を高める。 A: 生徒アンケート「人権意識の向上」70%以上	A	B	・生徒アンケートの結果では、「人権意識が高まったと思う」の項目について、『そう思う』『ややそう思う』の回答合計が、70.2%と昨年より13.8ポイント増加した。また人権教育のまとめアンケートでも、様々な差別をなくすために、『コミュニケーションの大切さ』を挙げており、多くの生徒はしっかり人権について考えてくれているようである。	・生徒の人権意識をさらに高めるために、「人権講演会」の実施や、他校のように生徒会に「人権委員会」の設置も考えられる。しかし費用や準備の問題や、生徒会規約の改正の問題もあり、現段階では難しい。他分掌と連携しながら粘り強く生徒たちに関わっていきたい。	
		・今年度の人権テーマを設定し、各クラスに掲示したり、人権啓発の広報紙を配付することにより、普段から人権問題を考え、お互いに尊重し合う人間関係を築くための取り組みを行う。	B	B	・年度当初に、『優しい言葉で笑顔のリリース』という年間テーマを決め、クラス掲示をして生徒への啓発を行った。また、高人数の人権広報紙『Freedom』を全クラスに掲示してもらった。徐々に生徒たちに浸透しつつあるが、生徒指導面で言葉のトラブルが起こったりしまった。	・来年度も年間テーマを設定し、教室掲示して啓発したい。人権広報紙は発行できなかった。人権教育部のメンバーが毎年大きく入れ替わりと難しいが、前向きに検討したい。	
	人権作文の取り組みの充実	・夏休みの課題として、人権作文を書くことを通して、自らの人権意識を確認したり、社会にある様々な人権問題に気づき、自己を高められるような人権作文HRに取り組み。	B	C	・事後のHRでは、昨年度高人数発行の『ひとりひとりの願いを』から、本校生の作文を含む2編を選び指導案を提示した。特に本校生の作文は生徒たちも身近に感じてくれて、熱心に取り組んでくれた。クラスの実情に合わせて展開してもらったが、他の人の考えを知る機会でもあるので、今後も続けていきたい。	・自クラスから作文を選んで、HRで展開する方が、生徒たちはより身近に感じられると思う。但し本人の了解を得る必要がある。各クラスの実情に合わせて、柔軟に対応していただきたい。	
		・人権作文を書く意義などを説明する資料を配付して、事前指導を行う。 ・夏休みの学年登校日に、人権作文を提出させて、2学期の授業式当日には、全員提出できるようにクラス担任と連携して取り組む。 A: 人権作文の提出率 100%	C	B	・夏期休業前のHRで、人権作文の意義やテーマについて、資料を配付して担任から指導してもらった。夏期休業中の学年登校日に提出させ、未提出の場合は担任から粘り強く指導していただいた。その結果提出率は94%で昨年より12ポイント増加した。教科の課題と違い提出意欲が低い生徒も見受けられるので、今後も何故人権作文を書くのか、生徒たちに訴え続けたい。	・担任の粘り強い指導のおかげで、学年登校日以降に提出する生徒も多い。提出率が目標とはほど遠いので、人権教育部としても、人権作文を書く必要性について、生徒たちに訴えていきたい。また、各クラスと連携を取りながら、協力して指導していく必要がある。	
	人権HRの取り組みの充実	・各学年と連携を深めながら、人権HRの充実を図る。人権教育部で指導案を作成し、実施直前の学年会議で研修会をもち、内容の検討を行い、本校生の実情に応じた内容で、HRを展開し指導する。	B	B	・実施直前の学年会議で、人権教育部から指導案を提示し、研修会をもった。しかし他の案件も多くあるため、なかなかじっくり内容を深めることができなかった。担任により、独自の資料を使ったり、プロジェクトを用いて展開したり、工夫して指導されたクラスもあった。	・2分掌の部員が多く多忙であるが、会議の前に余裕を持って指導案を配布し、事前に資料に目を通してもらえば、スムーズに研修ができると思われる。学年の状況に応じたHRを展開できるように、さらに各学年と連携を取りたい。	
		・校内外の研修を通して、教員自身の人権意識の向上を図ったり、最新の知識を習得し、力量を高め、HRでの指導に生かしていく。 ・各種研修会や研究会の案内を行い、自主的な研修を促していく。	C	B	・職員朝礼時の案内の他、校外研修の案内をまとめた一覧表を配布して、職員の自主的な研修を促した。しかし日頃の業務が多忙で、なかなか参加してもらえなかった。また、分掌の会議の関係で、校内研修を入れる期間が限られており、人権教育部単独で校内研修会を持てなかった。今年度も教育相談室主催で、研修会を持っていただいた。	・校外研修には参加しづらい状況であるが、今後も案内していく必要がある。特に若手教員には声掛けしながら参加を促したい。校内研修は他分掌の研修とも調整しながら、審査中は採点などの負担にならないように、計画していきたい。	
		・HR事後メモを通して、実施した人権HRの課題点や生徒の様子を集約し、今後の指導案の改善や指導に生かしていく。	B	B	・HR事後メモを学期毎に集約し、校内人権教育推進委員会で報告したり、職員会議で資料として配付した。様々な意見をいただいたので、今後の指導案作成に生かしていきたい。	・最終的には生徒達の進路も念頭に置きながら、生徒の人権教育面のスキルを上げる指導を考えていく必要がある。現状では指導案の改良にも限界があり、各クラスと人権教育部が一纏めに持ち回りの指導案作りを検討していく余地はある。	

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
進路指導 キャリア教育	・進路目標の早期確立と望ましい職業観・勤労観の育成	・3年間を見通した系統的な進路HRや総合学習の時間の取り組みを通して、自らの将来を展望し、確かな目的意識を持って自己実現に向けて取り組む姿勢を育てる。 A 生徒アンケート 満足度60%以上	B	・3年生は、各種模擬テストを6名受験(進研2 公務員4) ・第3学期に、進学希望者が必受験の模擬テストを実施。 1年生22名、2年生24名受験 ・県簿書福社課と連携して、療育手帳をもつ生徒に対するインターンシップを実施。 ・2020年からの新制度に向けての情報収集に努めた。 ・生徒アンケート 満足度 58.0%	・1年生から、自らの学校生活(欠席・評定など)が進路実現につながることを具体的な数値を用いて理解させる。 ・進路講座の充実を図る。 ・他機関との連携を深める。 ・入試改革に対する準備を進める。	・進路実現の為に中高校入学者後、早い段階から生徒自身にしっかりと卒業後の進路を考えさせることが重要である。現在行っている取組をさらに充実したものにしてもらいたい。
	・進路実現の支援	・生徒・保護者の考えを理解し、満足した進路が実現できるよう進路相談の機会を大切にす。 A 生徒アンケート 満足度60%以上	B	・就職を希望する生徒の保護者を対象に説明会を実施。 ・学校推薦内定者から内定辞退が1名発生。 ・進路閲覧室や掲示板の整理を行い、利用しやすいよう努めた。 ・生徒アンケート 満足度 68.3%	・来年度も保護者対象の説明会を実施し、生徒・保護者に学校推薦や指定校推薦での辞退者が出ないように理解を求め。 ・学期末の懇談時に進路閲覧室の利用が増えるよう、利便性の向上に取り組む。	
	・進路保障の取り組みの強化	・就職指導について、企業訪問を充実させる。また、WEB公開求人についても検索を強化して、安定した求人数を確保する。 A 企業年間訪問60社以上 A 学校総務課就職希望者の内定率100%	B	・進路指導部員で、6月半ばまでに52社訪問し、求人依頼。一次 求人受付件数 県内 148社 県外 207社 二次 県内 161社 ・学校推薦で就職希望者59名 全員内定。 ・就職希望者で、様々な理由からフリーターを選択した生徒が8名。	・2019年から景気が後退局面に入るといわれている。その時に、求人数が激減しないように、丁寧な事業所訪問が必要。 ・生徒・保護者に高校生の就職のルールを周知し、内定辞退者を出さない取組をすすめる。	
	・学校の教育力を活用したキャリア教育の推進	・高大連携校をはじめとする学校外の教育力を活用することで、キャリア教育のさらなる推進を図る。 ・職員研修の機会を設定し、進路を取り巻く環境や指導方法などについて研修を深める。 A 職員研修を年1回実施する。 A 生徒満足度 60%以上	B	・奈良TIMEでのフィールドワークを実施すべきかどうか、昨年度からの課題であったが、奈良大学文学部地理学科より講師を招き、研修を深めるとともに、アドバイスを頂き、成果を上げることができた。 ・白鳳短期大学 医療系学部の学び(1年生 生スポ科) ・奈良大学 奈良TIME事後指導講演会(1学年) ・(株)マイナビ 情報活用について (2学年) ・(株)さんぽう 面接時のマナーについて (3学年) ・帝塚山大学法学部 社会人学「多重債務について」(3学年) ・(株)キッス・コーポレーション 入社後のビジネスマナー(3学年)	・2020年からの大学入試改革に向けて、職員研修を実施する。 ・1学年の生徒に対して、新しい入試制度を理解するガイダンスを実施し、指定校推薦やAO入試にどの程度影響するのか情報収集に努める。 ・外部機関とも協力して、進路に対する意識が高まるような取り組みを計画・実施する。	
評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
環境整備	・校内美化の推進	・通常清掃活動の徹底をはかる。清掃担当者の自己点検を受けて、環境整備部による点検を実施する。担当者にフィードバックし、清掃活動の徹底をはかる。 A 週1回の清掃点検を実施する。	B	・通常清掃において週1回の部員による清掃点検を実施した。清掃活動の活性化につながってきたと思われる。活動が活発になるにつれて、消耗品の不足が目立ってきた。事務室と連携を取って円滑な補充を実施したい。	各自が得た情報を分掌として共通認識それが日常活動にスムーズに反映されるようにする。	
	・ゴミの分別の徹底	・美化委員によるポスター制作、呼びかけ等啓発活動を通じて、生徒に分別の徹底をはかる。 ・ホームルームでの連絡を通じて生徒のルール遵守を高める。 A 生徒アンケート調査結果「ゴミが落ちていたら拾う」40%以上	A B	約82%の生徒が校内の美化に関心を持ち、ゴミ拾いをしてきている。数年前に比較して、廊下のゴミがない状態が続くようになった。その状態が校内だけでなく、校舎外、通学路でも実現でき、続けられるように取り組む必要がある。	ポスターによる啓発活動に加え、美化委員を中心として活動できるようにする。美化委員会を実施し、校内の状況を把握させ、自主的活動を促す。	
	・緑化運動の推進	・校内3ヶ所の美化委員管理花壇で、美化委員による草花の栽培管理の実施。 ・美化委員による植え替え作業、水やりの実施。	B	例年通り、学期に1回の花壇の草花の植え替え作業を実施した。美化委員による当番制による週2回の水やり作業も実施した。昼休みの忙しい時間帯ではあるが、時間を削ぎ、頑張ってくれたように思う。	ゴミの捨て方について、更なる意識付けをすることが必要である。美化委員、ポスター掲示を通じて、再度分別方法の徹底をはかりたい。	
	・緑化運動の推進	・校内3ヶ所の美化委員管理花壇で、美化委員による草花の栽培管理の実施。 ・美化委員による植え替え作業、水やりの実施。	B	例年通り、学期に1回の花壇の草花の植え替え作業を実施した。美化委員による当番制による週2回の水やり作業も実施した。昼休みの忙しい時間帯ではあるが、時間を削ぎ、頑張ってくれたように思う。	美化委員の年間計画の作成及び連絡を徹底し、できる限り生徒に過度の負担を与えないように配慮し、活動しやすい環境を作る。今後、美化委員の意見が反映できるように委員会にしていきたい。	
評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
文化図書	・図書館教育の充実	・新入生対象の図書館オリエンテーションを始め、学校活動全般において図書館にある本・ツールを積極的に進め、利用頻度の向上を目指す。 A 貸出数 前年度比10%増 ・図書委員の活動をさらに活発にし、図書館を元気あふれる場にする。	A	・貸出数は昨年の880冊から1275冊(1月末)に増加した。 ・授業や特別指導等での貸出が多かったが理由と思われる。 ・授業や放課後の部活動指導での図書室利用が多かった。 ・図書委員はカウンター当番、ポスター係、図書だより原稿執筆、図書室の本の紹介とともに、概ね役割を果たしていた。	・今後も本コーナーの設置に努め、図書室利用を促す。 ・本の紹介を今後も校内に掲示し、全校生徒に読書のおもしろさ・大切さをアピールする。 ・今後も学校生活に必要な図書の充実を努める。また活動単位での図書室利用を促す。	
	・図書館教育の充実	・図書館だよりを充実させ、新着任者や図書委員からの図書を紹介する機会を増やす。 さらに新着図書を紹介を積極的に行い、生徒の図書室利用を促す。また、読書感想文やストーリー創作を通して、生徒が読書に親しむ機会を設ける。 A 読書感想文提出率 100% (長期欠席者を除く)	A B	・読書感想文の提出率は86.1%で、昨年度の80.7%より上昇した。特に1・2年においてはほぼ100%の提出率であった。担任の先生方の指導の成果だと思われる。 ・今年度も本校生徒の頑張りで、校内コンクールを実施し、青少年読書感想文奈良県コンクールに優秀な3作品を応募することが出来た。読書感想文の指導に一定の成果が現れたと思われる。	・来年度以降も引き続き担任と連携を図りながら、提出率向上に向けて粘り強く指導する。	
	・視聴覚教育の充実	・視聴覚室を積極的に使ってもらえるよう、運用面での効率化や液晶テレビ、DVD、CDソフトの使用率の増加を図る。 ・視聴覚教材(DVD・CD・ビデオ)を利用した効果的な授業や学校行事の展開に協力する。	C C	・特にLHRや総合的な学習の時間において、有効に活用されていた。 ・視聴覚教材を効果的に活用した授業を行う教科も幾つかあったが、全教科で実施するには至らなかった。	・各授業で効果的に使用できるよう、視聴覚教材(DVD・CD等)をさらに充実させ、図書・視聴覚教材の一貫を提示する。	
	・文化活動の活性化	・文化祭において多様なジャンルの芸術鑑賞を企画し、様々な文化に触れる機会を生徒に与え、芸術を鑑賞する態度を養う。 A 芸術鑑賞事後アンケート満足度 85%以上	B B A	・芸術鑑賞事後アンケートの結果、「良かった」と回答した生徒は83.7%。昨年度より少し満足度が下降したが、概ね目標は達成することができた。 ・文化祭は特に大きなトラブルもなく、概ね成功を収めることができた。しかしタイムテーブルの冗長さや審査基準の曖昧さなど、改善すべき点が浮き彫りになった。 ・今年度より読書会に代わり、ストーリー創作HRを新たに実施したが、生徒は熱心に取り組んだように思われる。 ・朗読会は予定通り実施でき、成功を収めることができた。 ・カルタ会では出場生徒・朗読係の生徒達も意欲的に取り組む姿勢が見られ、活気あふれる行事にすることができた。近年、カルタに興味のある生徒も増えつつある。	・来年度の芸術鑑賞会はパフォーマンス系の予定。 ・来年度は、特にタイムテーブルの見直しと、生徒の携帯電線の扱いについて再検討し、生徒の満足度の向上を目指す。 ・ストーリー創作HRは、今後も続ける方向で準備する。 ・朗読会(おはなし会)は、来年度より演者が変更になるので、生徒の実態に応じた内容を検討する。 ・朗読会・カルタ会は、さらなる内容の充実を目指す。	

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
保健体育部	・健康教育の実現	・生徒のニーズに合わせた資料を定期的に作成し、生徒の健康意識の向上に努める。また本人だけでなく保護者にも伝わるよう保健だよりを有効なものにしていく。 A 学期に一回資料(保健だより)を発行する。	A	保健だよりを通じて、熱中症・インフルエンザ・食中毒等の予防に関する知識を周知できるよう努めた。また、本校の健康課題である「歯の多さ」についても注意喚起を行った。しかし、生徒・保護者の健康に対する意識はまだ低いと感じられる。	保健だよりの発行を増やし、情報提供の機会を増やしていく。また、三者懇談等を利用して、保護者に健康に関する資料を配布し、家庭でも指導していただけるようにする。	・部活動が活発に行われている。近畿大会や全国大会に多くのクラブが出場できるようにがんばってもらいたい。 ・スローガンに見合うものを学校全体で取り組んでもらいたい。
	・保健室との連携	・保健室、教室生徒の状況について、学年・クラス担任と連携し、情報を共有する。 A 学年会議等で情報交換を図る。	B	巡回授業の生徒や気になる生徒に関して学年主任・クラス担任と連携し対応することができた。今後さらに連携を深めていくために学年会議等で利用できるような資料作成が必要だと感じた。	月毎のクラス別実況報告が把握できるような資料を作成し、定期的に学年主任・クラス担任に配布し、さらに連携を深めていく。	
	・食育の推進	・献食物についての意識を向上させるため、校内のジュース販売の内容改善を継続して行う。 A 食に関する講演会を実施する。	B	講演会以外でも指導する場が必要だと感じた。学校保健委員会で学校医より指摘のあった「肥満」や「歯」に関する、食育を進めていくことで改善していかようにしたい。食に関する講演会は運動部員に対して実施できた。来年度は全校生徒に対して実施できるようにする。	HR教室に食に関する資料を掲示するなど、食に関する情報を目にする機会を増やし、家庭や保健の授業でその補足説明を行うようにする。食に関する講演会は早い段階で計画し、生徒が興味を持って聞ける内容となるように計画する。	
	・生徒の体力向上	・トレーニングの必要性について理解させ授業でトレーニングを充実させることにより、トレーニング方法の習得や日常的に実施できる能力を育てる。また1学期の授業では10分間走を実施し、運動習慣も身につけさせる。 A 学期中にトレーニングの評価を2回程度実施する。 ・持久走を毎学期実施し、体力の向上を図る。 A 従来の1.5倍で実施する。	B A	10分間走は昨年度に比べて真面目に取り組む生徒が増えてきている。トレーニングは毎時間、正確に行うよう促すことにより、昨年よりできるようになった生徒が増えているが、意識の低い生徒をどのように取り組ませるかが課題である。トレーニングの評価は概ね実施することができた。 授業毎の10分間走や1学期に持久走を実施したことにより、走る運動に対する苦手意識が減少し、運動に慣れることができたことでマラソン大会での時間オーバーによる再レースは無しであった。	授業ごとに必要性や実施方法について伝え、意欲的に取り組めるよう工夫する。	
		・体力向上への取り組み及びスポーツテストの意義や方法について授業を展開し、各種目の数値を向上させる。 A 全学年において「体づくり運動」の取り組みを充実させスポーツテストの記録向上を目指す。	B	スポーツテストは授業内で各種目の練習を行うことにより、生徒のモチベーションの向上やスムーズな測定の実施に繋がった。スポーツテストの記録は少しずつ向上している。	来年度も継続して実施し、更に生徒の体力の向上を目指す。	
	・運動部活動の活性化	・運動部員集会を行い、アスリートとしての資質の向上を図る。 A 運動部員集会の実施 毎月1回、学期に1回以上 運動部・文化部合同の清掃活動を実施する。 ・新入生体験入部制度を実施し、部活動への加入を促進する。 A 体験入部を100%完了させ、新入生部活動加入率50%以上を達成する。	A B	月に1回の運動部員集会と学期に1回の文化部・体育部合同清掃活動は実施することができた。また今年度からキャプテン会議を実施し、生徒が主体的に活動できるように取り組んでいる。  体験入部は予定どおり実施することができたが、目標の加入率50%は達成できていない。また普通科女子の部活動参加率が低い。途中で退部する生徒が多い。	各顧問の集会に対する生徒への指導において意義の共通理解・意思統一が必要である。  生徒が積極的に参加できる学校全体のムード作りや各部の受け入れ体制を工夫する。また体験入部からの入部率や各部の退部率も分析し、検討する。	
評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
教育相談室	・広報と研修の充実を図る	・生徒や保護者に、スクールカウンセリングの案内を行う。 ・教職員向けに「教育相談だより」を発行する。 A 年2回発行 ・教職員向けに職員研修を実施する。 A 年1回実施	C A	・合格者説明会や新入生オリエンテーション、三者面談案内時にスクールカウンセリングの案内を行ったが、保護者からの相談や教員のコンサルテーションが少なく、生徒支援に結びついていない。 ・教職員向けの「教育相談だより」を発行できなかった。 ・職員研修を1回実施した。(参加率82%)	・カウンセリング案内の教室掲示やSCと連携した「スクールカウンセラーだより」の発行等をとおして、生徒・保護者への広報活動の方法についても検討していきたい。 ・職員研修会において、「教育相談体制の構築に向けての本校の課題」について意見を出し合う。	・スクールカウンセラーを有効利用し、生徒等の相談の充実に向け取り組んでもらいたい。
	・支援が必要な生徒の把握に努める	・中学校訪問情報・生徒アンケート回答・各学年会議における情報交換等をとおして、支援が必要な生徒の実態を把握する。	A	・中学校の特別支援教育コーディネーターと連携し、要支援生徒の実態把握に努めた。(本年度は5月中旬に確認) ・学習支援が必要な生徒に対して、教科担当と連携した個別の学習支援体制が定着してきた。	・中学校の特別支援教育コーディネーターへの確認を早い時期に行い、支援方法を検討していきたい。 ・学習支援の時間帯(早朝・放課後)や支援状況等の情報を全職員が共有できるよう、工夫する。	
	・生徒についての的確な情報交換と教職員連携を図る	・定期的に教育相談室会議を開き、生徒についての情報交換を行う。 ・必要に応じて、「ケース会議」「教科担当連絡会」を開催し、支援や学習指導が必要な生徒について、情報交換を行う。また、定期的に職員会議で報告を行う。	A A	・教育相談室担当教員とSCとの情報交換会議を年間4～5回行い、生徒理解のための参考とした。 ・「教育相談室における「気になる生徒」一覧」の全職員への提示を、年間5回程度行い、情報の共有を図った。	・教育相談室担当教員とSCとの会議の時間調整をするためには、SCの来校日の滞在時間帯を変更していく必要がある。 ・「教育相談室における「気になる生徒」一覧」の全職員への提示を、年間5回程度行い、情報の共有を図った。	
	・相談活動の充実	・生徒指導部や進路指導部・養護教諭等、他分掌と連携しながら、クラスや生徒の状況に応じた相談活動を実施する。 ・不登校や問題行動等、ケースに応じてスクールカウンセラーや外部機関(教育研究所 生徒指導支援教育相談係・特別支援教育部等)との連携を図る。 ・教育相談ルームを有効に活用する。	B B A	・不登校傾向にある生徒がスクールカウンセリングを受けることを希望した際、時間調整を適切に行うことができなかった。 ・要支援生徒に対する学習支援やスクールカウンセリング、要支援生徒の保護者との面談、SCとの情報交換会議等に活用した。	・クラス担任や当該学年、生徒指導部等と連携しながら配慮する必要がある。 ・通常、スクールカウンセリングの際に使用しているカウンセリングルームが使用できない場合に備えて、教育相談ルームも使用可能な環境づくりに努める。	

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
生涯 スポーツ科	・実習の充実	1年生キャンプ実習 事前指導を充実させ、自然の中で安全に行動し、仲間と協力しながら信頼関係を築かせ、達成感を高める。 A 生徒の実習日誌アンケートで活動の達成感90%以上	B	B	入学後、早々の実習ではあったが、集団生活を行う上で協力することの大切さを学ぶことができた。又、クラスがまとめるための信頼関係を築くことができた。その反面、より中身の充実を目指すためにプログラムの見直しが必要。	実習初日の体育館でのオリエンテーションの内容の検討と定着度合いを図るなど確実に身に付けさせる内容を検討する。	・体育大会時の集団演技をもっと地域にもアピールし、スポーツ科の取組に関心を持ってもらえるようにしてもらいたい。
		2年生スキー実習 インストラクターの指導を吸収し、効率よく上達できるようにする。 A スキー検定3級取得率80%以上	C		スキー実習については、生活および講習ともに実りある実習であった。しかし、ハジテテスト(検定)は全日程で悪天候が続いたこと、また、経験者もいなかったことから思うような成果が上げられなかった。3級合格率18%。	今回も2名(昨年度1名)の欠席が出てしまい、全員参加とはいかなかった。インフルエンザ等が流行する時期ではあるが、全員参加できる取り組みを行っていく。	
		3年生マリンスポーツ実習 インストラクターの指導を吸収し、効率よく上達できるようにする。 A マリンスポーツ各種目の達成感90%以上	B		今年のマリン実習は、実習準備、生活等において全体的に時間を守れメリハリのある実習が展開できた。この実習も12年を終え、新しいプログラム(遠泳)を取り入れていく事を考え実習の内容を検討していく。	体育科の水泳の授業が十分確保できていない現状があるので、来年度より必ず週1回は水泳の授業が展開できるように時間割を考える。そして全員が泳げるようにする。	
	・部活動の充実	日常の体育授業から体力向上を目指す。 A 毎時間の補強運動を正確に行い、運動強度を増加させる。	C	C	意識の違いが顕著に表れていた。特に運動の正確性に欠ける部分が多い。また、やらされている感じもあるので、自らが進んで取り組む指導を展開していく。	個々の目標意識を上げたうえで、トレーニングの目的や重要性等を理解させなければならない。	
		生徒の悩みや問題に対して部顧問と担任が連携を図り、心と体の安定を保ちながら人間性、競技力向上を目指す。 A 前年度を上回る競技力の向上	C		生涯スポーツ科を理解せずに入学してきている生徒が多い。年齢層が低く浅い顧問構成の部活に関しては、気軽に相談できる顧問間のコミュニケーションが必要。又、部員との人間関係・信頼関係が希薄な部分があり、心の安定・競技力向上には至っていない。	生涯スポーツ科を中学校の先生方に理解してもらい、教員同士でお互いに学んでいける環境が必要。顧問や関係職員が部活を通してどのような生徒を育成したいかをビジョンを明確にし、アウトプットする必要がある。	
	・成績不振者の減少	日常の授業を大切に、聞く姿勢や理解、考える力をつける。学習活動最優先を生徒に理解させ、授業や学校生活の様子等関係教員で連携を図っていく。 A 学期末の成績不振者講習対象者各学年10%未満	C	C	成績不振者の数を減らすことはできているが、授業態度や理解に関しては疑問が残る。本来大切にしなければならない部分を理解させる必要がある。評価を気にしている生徒が多くなっているように感じる。評価のために運動をするのではなく、体力の向上・健康の維持増進のために運動をさせていく動機づけが必要。	全員で協力をし、考え、工夫しながら授業を展開できるように力をつけていく。最低限の事はできるようにはなつたが、それ以上のことまで取り組めていないので、毎時間、授業内容の確認と目的を全員で理解してから始めていく。評価ばかりを気にしている生徒が増えてきている傾向が強くなっている。	
提出物の提出率を向上させる為、関係教員と連携を図りながら進めていく。 A未提出率6%未満		B	評価を気にする生徒が増えてきた為提出状況は良くなった。先生方との連携もでき成果を上げることができた。		授業担当は勿論ではあるが、今後も各先生方との連携を大切にしながら継続的に指導していく。		

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
学校事務	授業料徴収の取り組み	過去の授業料未収については、書面や電話もしくは家庭訪問等によりその縮減を図る。 ・在校生の授業料滞納についても書面や電話、家庭訪問等による納入促進に努めるとともに、就学支援金制度の周知、適用を図ることにより授業料の完全収納を目標とする。	A	・在校生にかかる授業料のうち、納期前納入に至らなかったものについては、関係規程等に則し書面や電話、対面等による徴収促進に努めるとともに、就学支援金制度についても周知し、その適用促進を図ることにより従前同様に完納できている。 ・過年度分の授業料未収についても、関係規程等に則し書面等にて徴収に努めたが徴収率はほぼ変わらなかった。なお、これについては、その一部(10,600円)で不納欠損の処理を行った結果、年度当初の146,900円が136,300円となった。	・在校生にかかる授業料については、就学支援金制度の周知や、その適用促進を努めることにより、未収金の発生を抑える。 ・過年度分の授業料未収についても、引き続き関係規程等に則して徴収に努める。	
	光熱水費等の節減	・デマンド監視システムを効率的な消費電力の節減に資することができるよう時季に応じた設定の工夫に努める。 ・節電、節水等により省エネ環境意識の醸成を図るとともに、経費の縮減から経費の有効活用への工夫により職場環境の改善に取り組む。	B B	・デマンド監視システムを有効に活用することにより、効率的に電気を使用することに努めた結果、従前同様の電気使用で推移した。 ・電気使用量については、上記のようであったが、電気使用料については、体育館のLED照明等の省エネ器具等への改修により、経費の縮減に至った。 ・水道使用量は、省エネ環境意識の保持に努めたことにより縮減できた。その結果、水道使用料についても縮減となった。	今後ともデマンド監視システムを有効に活用することにより電気使用が効率的に行えるよう努めるとともに更なる省エネ意識の向上を目指す。 ・節電対策に有効である省エネ器具への移行を計画的に進めていく。 ・節水対策としては、本校施設の水道配管の老朽化から漏水事故が発生しているため、その対策の検討が必要である。	
第1年生	・高校生として、基本的なルール・マナーを守る態度を養う	・HR・学年集会等で服装を生徒自ら正すことの大切さを教える。 A 生徒アンケート達成度85%以上  ・HR・学年集会等で毎日登校することの大切さ、時間を守ることを大切さを教える。 A 欠席数・遅刻数前年比10%減  ・HR・学年集会等で社会や学校のルールを守る大切さを教える。 A 生徒アンケート達成度85%以上  学習環境を整え、積極的に校内美化に努める姿勢を養う。 A 生徒アンケート達成度85%以上	A A A A	生徒アンケート「正すことの大切さ」を95%正しく着用する＝96%と答えている。年間を通して大半の生徒が正しい制服の着用をすることができた。ごくごく若干のできていない生徒があり、生徒自らがしっかりと意識を持って行動できるように、日々徹底した継続指導が必要である。その生徒においては服装を正すことと着こなしというものの捉え方が意識として乏しいところがあり、高校生としての正しい判断、意識付けを身につける必要がある。靴下に関しては規定のソックスの着用がほぼ完璧に定着した。  生徒アンケート「毎日登校することの大切さ」を93%時間を守る事の大切さ99%多くの生徒がその大切さを認識しており、結果として欠席総数前年より49%減、遅刻総数前年より53%減であった。年間を通して、欠席、遅刻が少なかったことにより、落ち着いた雰囲気や朝のS・H・R、1限目の授業に臨むことができた。遅刻に関しては、ごく少数の特定の生徒が繰り返す傾向があったが、遅刻指導においては、その日の遅刻生徒は、当日に指導を受けることができた。  生徒アンケート「社会のルール遵守の大切さ」を99%理解し、実践＝96%と答えている。また学校のルールを遵守していると答えた生徒が93%であるが、一部に指導を受けた生徒がいる。  生徒アンケート「積極的に校内美化に努めた」＝92%校内美化は多くの生徒が認識し、日々の清掃時間においても、ほぼ全員が良く取り組めた。ゴミの分別に努めているが、一部の生徒に認識不足や美化の実践に欠ける生徒が若干見られた。	・今後の2年生、進路を見据えて指導していくことなど、生徒自身に正しい制服の着用的重要性、意識をしっかりと持たせる。 ・学年集会での語りかけを強化し、また学年の教員が共通理解、意思統一し、学年全体に統一してよりめ細かく生徒達の服装・髪型・化粧等を指導していく必要がある。 ・身だしなみ指導もその時だけでなく、各クラスが共有し、徹底して事後指導を継続していく必要がある。 ・今後さらに生徒達に基本的な生活習慣を確立させる大切さを認識させるとともに、生徒自身に進路についても考えさせ、将来自分がどうあるべきかを自ら考え、行動できるように指導することが重要である。 ・HRや学年集会を通してゴミの減量化や捨て方、自分たちの学習環境を整えるなど規範意識を育てる指導が必要である。	・学習(家庭学習)活動に対する意識の向上を望む。
第2学年	・学習習慣を身につけさせ、学校生活を充実させる。	・予鈴での入室を徹底し、チャイム始業の定着をはかる。 A 生徒アンケート達成度85%以上  ・小テスト・課題提出を含め学習の大切さを教える。 A 生徒アンケート達成度85%以上	B A	生徒アンケート「チャイム前着席86% 真剣な授業態度を86%の生徒が実践している」 予鈴での着席・準備が不十分ではあるが、学校での学習習慣は徐々にではあるが定着しつつあり、「成績の重要さ」は多くの生徒が理解している。  生徒アンケート「課題提出を93%が期限を守り提出した」と回答した。定期考査前の家庭学習一生懸命取り組んだのは22%、普段より取り組んだのは47%と回答している。また課題提出93%が期限を守り提出したと回答した。まだまだ日々の家庭学習の計画性、習慣化、取り組みの不足が懸念される。	・教師が早めに教室に行き、生徒に習慣的に意識づけをさせ、チャイム着席から徹底させる。 ・生徒に対して、自分自身の将来に向けて学ぶことの大切さを認識させる。 ・特に家庭学習の大切さ、習慣化を徹底して指導の必要がある。また、勉強やクラブ活動、休息の適切な切り替えについても今後の学校生活における必要性を指導する事が重要である。	
	・積極的にクラブ活動に参加させる	・部活動参加を積極的に勧め、多くの生徒を、クラブ活動に参加させる。 A クラブ加入率 50%以上	A A	生徒アンケート「課外活動をしている生徒83%」 入学以来、加入していない生徒が37%過半数の1年生がクラブ活動を行っている。学校としての目標が「スポーツをとおしてのづくり」としてあるので、普通科の生徒でも多くの生徒がクラブ活動に参加するように取り組みを継続していきたい。	入学当初の部活動体験は理解を深めることにおいては役立ったが、体験後に実際の参加人数をさらに増加させる工夫が求められる。この時期に部活動をする意義を理解させることも重要である。	
第2学年	・ルールやマナーを守ることの大切さを理解させ、社会で自立するための基本的な力を身に付けさせる。	・HR・学年集会等で服装を生徒自ら正すことの大切さを教える。 A 生徒アンケート達成度85%以上  ・HR・学年集会等で毎日登校することの大切さ、時間を守ることを大切さを教える。 A 欠席数・遅刻数前年比10%減  ・HR・学年集会等で社会や学校のルールを守る大切さを教える。 A 生徒アンケート達成度85%以上  ・適切な言葉遣い・挨拶の動作を指導する。 A 生徒アンケート達成度85%以上	B A B C	・生徒アンケート達成度は、91.5%と評価指標を上回ったが、教員の目から見てとちんとできていない生徒があり、意識を持ち生徒自ら行動で表すには継続指導が必要。 一部の女生徒に対し、カバン・コンタクトや化粧品の指導を繰り返した。指導された生徒は改善するが、継続性がいかに感じられる。また、男子生徒のフックに対しては年間延14名の生徒に下校指導させ、改善を促した。  ・昨年度第1学年の1月末までの遅刻数1213回に対して、今年度1月末までの遅刻回数617回と前年度比50.8%。昨年度第2学年との前年度比は46.1%と大幅な減少傾向にある。 ・欠席数も同様に、前年度の1月末までの2982回に比べ、今年度は1528回と前年度比51.2%と少なくなっている。	・身だしなみ指導」などを通して、きちんと服装を着ることの重要性を継続的に指導していく。 ・次年度進路指導に絡め、身だしなみを整える指導を強化していきたい。	
第2学年	・学習意欲を喚起し、学力の向上を図る。	・HR・学年集会等で社会や学校のルールを守る大切さを教える。 A 生徒アンケート達成度85%以上  ・適切な言葉遣い・挨拶の動作を指導する。 A 生徒アンケート達成度85%以上	B C	・生徒アンケート達成度は、95.2%と評価指標を上回ったが、年間の指導数から考慮して生徒たちの自己評価が高すぎるように感じられる。 ルールを守ることが大切であると理解できているが、行動が伴わない生徒もおり、意識と行動が伴うよう工夫した継続的な指導が必要。  ・自己評価(アンケート)の結果、83.6%、評価指標に至らなかった。 ・正しい言葉遣いもしなければいけない意識は持っているが、実際に丁寧な言葉遣いをする生徒は8割程度で、まだまだ不十分である。来年度は、進路決定に際し面接指導などがあるためその対策をしていきたい。	・ルールを知ること、知ったルールを守ることが大切であること。それらのことを自分をコントロールして行動に移すこと。授業やHR・学校行事など様々な機会を通して根気よく、丁寧に教えていく必要がある。 ・指導件数は多いが、担任の丁寧な指導の下、前向きに学校生活に取り組もうとする生徒も多くなってきている。	
	・部活動やボランティア活動等に積極的に参加させることとおして、豊かでたくましい心身の育成を図る。	・予鈴で入室し、授業の準備をする。授業に意欲的に取り組ませる。 A 生徒アンケート達成度85%以上  ・定期考査の大切さを認識させ、全力で取り組ませる。 A 生徒アンケート達成度85%以上	B B	・生徒アンケート達成度は、(着席)授業の準備をした46.7%、たいてい着席していた44.2%併せて90.9%と評価指標を上回った。 一部の生徒には、入室遅れや中途入室が見られた。また、忘れ物を友人に借りる者も見られ、物の管理についての指導も必要である。  ・生徒アンケート達成度は、85.5%と評価指標を上回り、多くの生徒の学習習慣に際しての意識は高まっているように感じられる。 一部には、各学期末に提出物がなかなか間に合う状況で、学力をつけるということが達成できず、課題をこなすだけになっている生徒もいる。	・先生方ができるだけ予鈴前に教室に行き、指導できるようにする。 ・授業中途入室の生徒に対しても、時間や体調管理の大切さを根気強く指導していく。	
	・修学旅行	・修学旅行を通して集団活動の大切さを身につけさせる。 A 生徒アンケート達成度85%以上	A A	修学旅行後のアンケートでは、参加生徒中9割を超える生徒が「楽しかった」、「講習や部屋のメンバーと協力することができた」と回答した。大きな事故や混乱もなく、充実した修学旅行となった。	成果が出たことに自信を持たせ、集団の一員としての役割の大切さを自覚させる。 3年次の進路指導と並行して、身だしなみ意識や規範意識を向上させ、さらに集団活動の大切さを身につけさせていきたい。	
	・部活動やボランティア活動等に積極的に参加させることとおして、豊かでたくましい心身の育成を図る。	・部活動参加を積極的に勧め、多くの生徒をクラブ活動に参加させる。	B B	・第二学年になってから、選部者が数名で、新たに文化系クラブに入部した者も多数いる。 ・厳しい環境に耐え、高い自己実現を望むよりも、自分の興味のある事に参加しようとする意識が感じられる。	家庭の経済的な事情などにより、出費がかかり時間的拘束力の強い運動部よりも、比較的時間の余裕ができそうな文化系の部活動の方が受け入れられる傾向にある。 ・学校を活性化させるためにも今後も部活動への参加を促していく。	

評価項目	具体的目標 (評価小項目)		自己評価結果		成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
第3学年	・学習意欲を喚起し、授業を大切に学習の向上を図る。また自己の進路実現のため、積極的に行動する姿勢を育てる。	a:予鈴着席・チャイム始業の定着をはかる。 A 生徒アンケート達成度90%以上	A		生徒アンケート達成度は、(着席準備した36%とたいいてい着席していた55%)併せて91%と評価指標を上回った。昨年度に比べ、入室遅れや途中退室(授業中のトイレ)はだいぶ減少した。	進路決定に際して、自分の成績が影響することを3年生になり意識した生徒は、授業を大切にしなければならないことを理解し、また平常点が大事であることが分かった。それらの生徒の発言や取り組みが、周りの生徒にも影響した。早い段階での「進路」への意識を持たせることが大切であると考えられる。	・学習(家庭学習)活動に対する意識の向上を望む。 ・進路実現に向けた取組の早期開始が必要である。
		b:調査・課題提出等を含め学習の大切さを教える。 A 生徒アンケート達成度90%以上	B	A	生徒アンケート達成度は、86%と評価指標を下回った。進路決定に向けて積極的に取り組みをした生徒も多かったが、欠席さえ取らなければいいと消極的な考えを持っている者もあり、意欲に欠ける生徒もいた。進路決定後、生活がルーズになった生徒もいた。	目的意識が、取り組みに大きな差をつけているように思われます。早い時期からの自分の将来像を持たせることが必要だと思います。	
		c:生徒の進路決定率の向上を図る。 A 進路決定達成率85%以上	A		生徒アンケート達成度は、93%と多くの生徒が自分の進路に関心を持ち決定に向けて取り組みを行った。	あきらめず、担任・保護者とできるだけ早い段階から話し合いを行い取り組みを進めることが良い結果につながっていると思われます。未決定の多くの生徒は、「動かず、粘らず、人の話を聞かず」の者が多いように思います。	
	・種活動・行事に積極的に取り組む姿勢を育てる。	d:最上級生として、部活動や委員会活動にその中心となって取り組む。 A 生徒アンケート達成度85%以上	B	B	生徒アンケート達成度は、76%と評価指標を下回った。部活動は各クラブとも最終の大会前は必死になり取り組みを行っていたが、その後の学校生活の中でクラブの良いところを活かすことができない生徒が多いように思われた。	3年間続けることが大切。途中退部を少なくする取り組みが必要。	
		e:学校行事に積極的に取り組む姿勢を育てる。 A 生徒アンケート達成度85%以上	B	B	生徒アンケート達成度は、81%と評価指標を下回った。体育大会や文化祭など積極的に取り組みをする生徒もいたが、自分たちだけが楽しければいいと勝手な行動をする生徒もあり、全体に迷惑をかけた生徒もいた。	イベント(学校行事)が自分たちの好きなことができる場所であると勘違いしている生徒が少数であるが、学校行事のあり方をしっかりと指導することが必要。	
	・社会人として必要な生活習慣やマナーを身につける。	f:正しい服装をすることの意義、大切さを理解させ、実践させる。 A 生徒アンケート達成度90%以上	A		生徒アンケート達成度は95%と評価指標を上回ったが、教員側から見るとまだまだ不十分な生徒も多く意識の低さがアンケートの結果に出ている。第二ボタンを外したり、カッターシャツの裾が出ていたり、ズボン・スカートのホックが外れていたり、だらしながが目立つ生徒もいた。	「身だしなみ指導」の継続と充実。	
		g:しっかり挨拶をする大切さを理解させ、生徒自ら実践できるよう指導する。 A 生徒アンケート達成度90%以上	A		生徒アンケート達成度は95%と評価指標を上回ったが、しっかりとできているかという点では不十分な生徒もいた。就職ゼミナー等で挨拶は「相手にしっかりと分かる声ではっきり」と指導されているにも関わらず実践できている生徒は少ないように感じられた。	学校生活の中での反復練習が大切だと思います。	
		h:正しい言葉遣いの大切さを理解させ、生徒自ら実践できるよう指導する。 A 生徒アンケート達成度85%以上	B	B	生徒アンケート達成度は90%と評価指標を上回ったが、生徒の意識と教員の受け止め方は異なる。きちんと言葉遣いができる生徒は少ないように思われた。就職試験の面接練習では、目撃的慣れない言葉に苦勞する生徒も多く、日々の意識と取り組みが大切であると感じられた。	日頃からの指導が必要です。忙しく、多くの生徒に同じ指導を何回も繰り返さなければいけないことが起こります。根気強くやるしかないと思います。	
		i:ひたむきに取り組む大切さ、時間を守る大切さを理解させる。欠席・遅刻をしないように指導する。 A 欠席数・遅刻数前年比10%減	B	B	1学期は、進路決定に向けての取り組みがあり、欠席・遅刻の数は減少した。しかし、進路決定後、生活のリズムを崩したり、いい加減か考え方から学校生活への取り組みが悪くなった生徒もいた。2年時欠席総数1988日に対して3年時欠席総数1521日(前年度比33.6%減)遅刻については、2年時総数1342回に対して3年時は1017回と約25%減となった。(1月末現在)生徒数の減もあり、実質的には減少していない。	欠席が自分の進路決定にどれだけ大きな影響を及ぼすか、一年次よりしっかりと意識させることが大切。アルバイト等で生活が乱れ、欠席・遅刻が多くなっている生徒もいるの現状。	